

I 「神々の乱心」の世界

「神々の乱心」は、新興宗教「月辰会研究所」の教祖が、宮中と軍隊に勢力を伸ばし、天皇権力を手中にしようとする、とてつもない野望を描いたスケールの大きな小説である。

（昭和初期）という時代と（天皇制）の深奥に迫る、壮大にして深遠なテーマを小説で描ききろうとした野心作である。



森浩一宛
松本清張書簡
森浩一氏所蔵

挿画 小泉孝司画・所蔵

多鈕雷光文鏡
高麗美術館所蔵

III 開花——昭和の終わるころ

昭和六十三（一九八八）年の夏、松本清張は次の連載小説について「やはりあれにしようか」と奮った。二十年余、「いつか必死にしておきたい」と執心してきた題材だった。新興宗教と諷刺というタブーを抱える題材に敢然と立ち向かうことを決意したとき、まさに（昭和）は終わるうと



「神々の乱心」
創作ノート
取材資料

「物語」

昭和八年、特高課の吉屋謙介係長は、謎の組織「月辰会研究所」から出てきた下級女官・北村幸子を尋問した。

自殺した幸子の遺品の通行証を見た、宮中女官の深町掌侍の弟・秋園泰之は、「三日月と北斗七星とを抱き合わせた朱の紋章」と「く」の字文様の、半月形の鏡」からの連想で、教団主は満洲に居たこ

とがあり、大正十年の「大連阿片事件」と関係があったのではと睨む。

「月辰会」会長の秋元伍三は関東軍の特務機関に所属していた。「大連阿片事件」発覚後、「新興宗教は鉄砲屋より儲かる」と聞いて「道院」に目を付ける。江森静子の行う凶示子シンの法に魅せられ、帰国後、共に新宗教を始めたのだった。

吉屋特高係長が捜査する埼玉で

の連続殺人事件も、「阿片事件」と関連があることが分かり……。

元憲兵司令官などが、「月辰会」の「神宝」（頭椎大刀）を拝観しに訪れていることを知った泰之は、教祖の恐るべき野望に言葉をのむ。

「神寶（皇位のしるし。三種の神器）は皇室の聖なる象徴だ。それが開けるとなれば、――」

月辰会

II 播種——『昭和史発掘』から

松本清張が謎の新興宗教の存在に突きあたったのは、「昭和史発掘」の執筆中であった。二二六事件を調べていくうちに、同じ昭和十一（一九三六）年に新興宗教と宮中とが結びついて起きた、二つのある意味で重要な事件が目にとまったのである。

「島津ハル不敬事件」と「神政龍神会事件」である。



「島津ハル事件」新聞記事
（取材資料）

「昭和史発掘」
直筆原稿

IV 絶筆——『本当に瑞々しい作品は』

（本当にみずみずしい作品は、若い頃には書けないものだ）

遺作「神々の乱心」はこの松本清張自身の言葉のとおり、若々しくまるで枯老を感じさせない。壮大で深遠なテーマに最後の情熱をほとばしらせ、想像力を奔放に解きはなった小説である。



「神々の乱心」
原稿
「神々の乱心」
掲載誌綴じ込み
（机上）

知性回廊——松本清張記念館を2倍愉しむ



都心の閑静な小倉城内のミュージアムです



ミステリアスに回廊を廻る常設展示室



清張が執筆し続けた書斎をそのままに再現



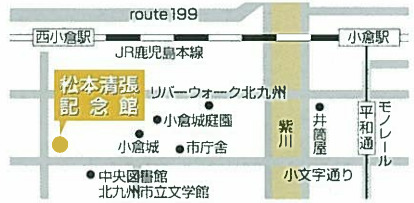
清張を識る、触れるライブラリーです



いち押し清張グッズのミュージアムショップ



清張めぐりの後は、喫茶室「石の館」で寛ぐ



A C C E S S

JR 小倉駅より 徒歩15分
西小倉駅より 徒歩5分

※小倉駅からは100円バスをご利用いただくと便利です
（小倉城・松本清張記念館前下車）

車 北九州都市高速、大手町ランプより5分

北九州市立
松本清張記念館
〒803-0813 北九州市小倉北区内城2番3号
TEL093-582-2761 FAX093-562-2303
http://www.kid.ne.jp/seicho